

被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み

会 期：平成 29 年 12 月 16 日（土）～平成 30 年 3 月 4 日（日）

会 場：福島県文化財センター白河館

展示の開催にあたって

福島県立双葉高校史学部は、昭和 22 年の発足以降、浜通りの地域史研究に大きな足跡を残してきました。原発事故による避難地域にある同校は、平成 29 年 3 月末をもって休校を余儀なくされています。史学部の部室から保護された資料等を展示し、原発被災地の文化財をいかに受け継いでいくべきかを考えます。

1. 福島県立双葉高等学校について

双葉高校の歴史

福島県立双葉高等学校は、大正 12 年に双葉郡新山^{しんざん}町の地に県立双葉中学校として開校しました。開校以来 95 年、「質実剛健」と「終始一貫」を校訓とし、多くの人材を輩出してきました。昭和 23 年に制定された校章は「梅檀^{せんだん}は双葉より芳^{かんぼ}し」の言葉にちなみ、梅檀の葉を 2 枚重ねた図案が用いられています。

文武両道を尊ぶ校風は、武道・球技・陸上・体操などの体育系部活動、そして史学・文学・理科・音楽・演劇など文科系の部活動の活躍に象徴されます。特に硬式野球部は、第 55 回、第 62 回、第 76 回甲子園大会に出場しました。

学窓より巣立った幾多の人材は、郷土の発展に大きく寄与したばかりでなく、福島県内はもとより、広く国内外に羽ばたき、さまざまな分野で活躍しています。

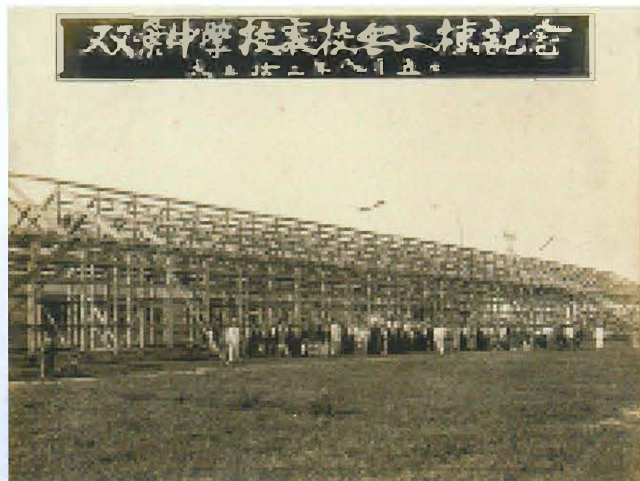
平成 23 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震にともなって発生した東京電力福島第一原子力発電所事故により、双葉高校も避難を余儀なくされました。以後、福島県内の各高校やいわき明星大学をサテライト協力校とするサテライト方式などにより学校は維持されて

きましたが、ふたば未来学園高等学校の開校にともない生徒の募集が停止され、平成 29 年 3 月 31 日をもって休校となりました。

甲子園出場時の列車の行先標

**第62回全国高校野球選手権
双葉高等学校甲子園出場**

このサインボード（行先標）は、昭和 55 年に第 62 回全国高等学校野球選手権大会福島県予選を勝ち抜いて、2 度目の甲子園出場を果たした双葉高校硬式野球部員が、常磐線双葉駅から兵庫県の西宮市に向けて乗り込んだ列車に掲げられました。双葉高校ナインは 1 回戦で 8 月 11 日に行われた第 1 試合で鹿児島県の川内実業高校に 3 対 1 で勝利し、「楢葉標葉のいにしえの」で始まる校歌が流れたのでした。8 月 15 日に行われた 2 回戦、札幌商業との戦いでは惜しくも 5 対 7 で敗れましたが、緑のアンダーシャツに「F U T A B A」の文字の純白のユニホーム姿は、甲子園に爽やかな印象を残しました。



大正 13 年裏校舎の上棟記念写真



双葉高校校舎

沼の沢古墳群（双葉町）

[illegible]

きよ と さく
清戸泊横穴墓群（双葉町）

こおりやま ご ばん
郡 山五番遺跡（双葉町）

A circular, grey, textured object, possibly a fossil or a small stone, resting on a rough, brown, textured surface. The object has a central circular depression with a small, raised, circular feature in the middle. The surrounding area is a rough, brown, textured surface, possibly soil or rock.

しています。官衙風の掘立柱建物跡群が確認され、瓦が数多く出土しました。軒丸瓦は八～一三葉単弁蓮華文瓦で、軒平瓦には偏行唐草文や波状文・重弧文が認められています。そのため、しねはぐんが標葉郡衙跡と推定されています。

こばまだい
小浜代遺跡（富岡町）

ま かべじょう
真壁城跡 (富岡町)

双葉高校史学部が調査に
関わった浜通り地方の
主な遺跡



2. 双葉高校史学部の活動

社会科研究クラブの発足

戦後間もない昭和 22 年に社会科研究クラブが発足し、考古学の活動を開始したのが、後の史学部スタートとなりました。他の高校と交流をもち、南相馬市真野古墳群やいわき市神谷作 101 号墳の発掘調査にも参加したほか、双葉郡内・相馬郡内における遺跡の表面調査も行っています。

昭和 35 年には、部の名称を社会科研究クラブから史学部^{ふたこう}に改称しています。昭和 23 年に双高創立 25 周年記念行事の文化祭で考古展を開催して以降、文化祭において考古資料を展示公開して、積極的に文化財の普及活動を行ってきました。

昭和 20 年代から 50 年代にかけての活躍はめざましく、史学部員の行った遺跡の調査は『福島県史』の遺跡地名表などに反映されました。また、民話の聞き取り調査・相馬藩城下町調査、空襲被害調査などの成果は『社研』・『双葉史学』に発表されています。数々の貴重な記録を残した史学部員の活動は、地域史研究に大きく貢献しました。

活動の記録

昭和 22 年に発足した社会科研究クラブは、郷土の遺跡や歴史の調査を重ね、その成果が蓄積されてきた昭和 32 年、初めての部誌『社研第 1 号』を刊行しました。以後、『社研』は第 4 号まで続きますが、いずれも謄写版印刷^{とうしや}（ガリ版刷り）ながら、「晩香錦織先生年譜」や「大堀焼の研究」、「郷土の伝説」、「特集 相馬藩における城下町と武家屋敷の研究」など、高校生としては高度な内容の論文を掲載しています。

昭和 35 年度に社会科研究クラブから史学部と部の名称を改め、昭和 37 年 2 月に刊行された部誌も『双葉史学』となりました。ただし号数は『社研』から継

続させ、『双葉史学』は第 5 号からのスタートとなりました。印刷は謄写版印刷から印刷所でのオフセット印刷に変わり、内容も、遺跡発掘調査報告や発掘調査体験記、遺跡^{とうき}の踏査で収集した資料の紹介など、考古学的内容が増加してきました。号数が新しくなると、考古資料の実測図や拓本、写真を組み込んで印刷できるようになりました。また、考古学記事ばかりでなく、民話伝説や空襲被害調査など、郷土の近代史や民俗にも及ぶようになりました。

昭和 56 年からは、史学部の第二機関紙的な冊子として『歴訪』が刊行されるようになりました。学術的な内容ばかりでなく、歴史を学ぶ楽しさを伝えるものとなっています。

史学部の部室には、双高の部誌ばかりでなく、福島県立原町高校・浪江高校・福島高校・石川高校・磐城高校・湯本高校の郷土史研究クラブや社会研究クラブ・史学部の部誌も保管されていました。往時の活発な交流活動を物語っています。



『双葉史学』



部室での活動のようす

昭和 22 年	社会科研究クラブとして発足 真野古墳群（鹿島町）の発掘に参加、双魚佩 ^{そうぎょはい} が出土
23 年	神谷作 101 号墳の発掘調査に参加、男子天冠埴輪が出土
25 年	浦尻貝塚（小高町）発掘調査に参加 沼の沢 4 号墳（双葉町郡山）発掘調査に参加
32 年	「社研第 1 号」発行 文六古墳群（浪江町）発掘調査に参加
35 年	史学部 ^{ふたこう} に改称
37 年	「社研」を「双葉史学」と改称
40 年	民話調査（相馬中心）
42 年	清戸迫横穴墓群（双葉町）発掘調査に参加
43 年	民話調査（双葉郡中心）開始
44 年	小浜代遺跡（富岡町）発掘調査に参加
45 年	浦尻貝塚（小高町）発掘調査見学 郡山五番遺跡（双葉町）調査に参加
50 年	真壁城跡（富岡町）の発掘調査に参加
51 年	順礼堂遺跡（浪江町）の発掘調査に参加
55 年	道平遺跡（大熊町）の発掘調査に参加

双葉高校史学部の主な活動年表

4. 城下町調査・民話聞き取り調査・空襲被害調査

双葉高校史学部では、昭和34年に合宿をしながら相馬藩における城下町と武家屋敷の調査、昭和40年に相馬市を調査、昭和43年に双葉郡で民話調査を行い、聞き取り内容をテープに録音し、昭和44年から45年にかけて録音内容を文字化しました。城下町などの成果については、『社研第4号 相馬藩特集号』に「相馬藩における城下町と武家屋敷の研究」として報告され、相馬市の民話調査の成果については、『双葉史学第8号』に「特集相馬の民話 佐藤キミヨさん



聞き取り調査の様子

の話」として掲載されています。さらに史学部は、昭和40年に「磐城民俗研究会」に参加、昭和46年には福島県民俗資料緊急調査に参加し、近世史や民俗学の分野にも力を入れてきました。

平成元年には、相馬市・原町市・相馬郡・双葉郡内各町村の空襲被害調査を行い、その成果を文化祭で展示し、『双葉史学第16号』に「相双地区空襲被害調査報告」としてまとめています。相双地区全体の空襲被害調査を行ったのは初めてのことで、複数の新聞にまで紹介された画期的な成果でした。



テープの文字起こし作業

5. 化石・岩石・植物標本

双葉高校には、郷土史関連の資料のほかに、化石・岩石・植物標本も多く保管されていました。化石は植物・貝・魚類・鯨骨で、ほとんどが新生代新第三紀のものです。産地は南相馬市信田沢、浪江町小野田・同町丈六、双葉町細谷海岸、楢葉町井出字立石、広野町二ツ沼などです。岩石・鉱物には、地元産だけではなく、購入した全国各地産の標本も含まれていました。これらの標本は双葉史学部が収集したものと考えられます。

植物標本は全て押し葉標本で、草本類・木本類(低木)・シダなどの陸上植物の他、海藻もあり、段ボール箱で5箱、数百点が保管されていました。その大部分が、戦前の旧制双葉中学生の製作によるもので、最も古い標本は大正年間に作られています。中には、夏休みの宿題として提出された標本もありましたが、残りの良く、製作手順がきちんと守られていました。標本技術にすぐれた教員の指導によるものと思われます。戦前の植物標本がこれだけ残されているのは、極めて貴重です。



部室に保管されていた化石標本

本展の開催にあたり、双葉町教育委員会・大熊町教育委員会・富岡町教育委員会から、ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成29年度まほろん企画展解説資料 被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み

(平成29年12月16日発行)

展示期間 平成29年12月16日(土)～平成30年3月4日(日)

主催／公益財団法人福島県文化振興財団

編集・発行／福島県文化財センター白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86

TEL 0248-21-0700